

## てん茶向き品種のてん茶加工割合拡大に向けて

対象者 甲賀市土山町 農事組合法人 G

### 【普及活動のねらい】

近年、抹茶原料であるてん茶の需要が拡大していることを受けて、法人 G は平成 30 年に大型てん茶工場を整備しました。しかし、全国的に多く栽培されている品種「やぶきた」のてん茶は、供給量が多く単価は安値傾向にあります。法人 G においても、栽培品種の面積は「やぶきた」が最も多く、てん茶工場稼働による収益向上の効果が十分発揮できていませんでした。

そこで、てん茶としての評価が高い「さえみどり」「おくみどり」「おくゆたか」「つゆひかり」「さみどり」等の品種（以下「てん茶向き品種」という）のてん茶への加工割合を高め、収益性の改善を図ることをねらいとして、課題に取り組みました。

### 【普及活動の内容】

てん茶向き品種の加工割合を高め収益性を改善するためには、一、二番茶とも連続して長期被覆しても樹勢を落とさずに安定生産できる栽培体系を確立する必要があります。そのため、代表的な品種で生育経過をモニタリングする茶園を設け、生育状況を数値化して的確に把握することで、①適期防除等による十分な茶園管理②最適な被覆の実施③一番茶摘採直後のせん枝④二番茶の被覆が可能かの見極め等連続被覆に耐える栽培体系の確立を目指しました。



モニタリング茶園（さきみどり）

次に、長期被覆に伴う樹勢低下を軽減するための施肥体系について、体系ごとに調査ほを設け比較検討しました。さらに、今後てん茶向け品種の面積を拡大していくため、年間収益の比較検討による新たなてん茶向き品種の選定や、「やぶきた」からてん茶向き品種への長期的な改植計画の立案による計画的な改植の実施等を支援しました。

### 【普及活動の成果】

モニタリング茶園の設置により生育経過を数値化することにより、適期に被覆を実施することができたことから、一、二番茶ともてん茶に加工できたほ場が、昨年度の 20% から 60% に向上できました。施肥体系では土壌分析結果や生育経過から、I 社の肥料を使った体系が有望と判断し、今後栽培体系に組み入れる計画をしています。また、面積拡大策では、新たに 2 品種がてん茶向き品種として、有望であることが明らかとなり、70a を「やぶきた」からてん茶向き品種に転換し改植することとなりました。

てん茶向き品種の加工割合は、昨年度に比べて一番茶は 15% 増え 50% に、二番茶は 8% 増え 40% となり、特に二番茶では、計画以上のてん茶加工面積が確保でき、昨年度以上の収益があがるなど、収益性の改善に寄与しました。

当課は、2 年間の成果を「てん茶工場活用モデル」として取りまとめるとともに、今後とも円滑なてん茶向き品種の活用拡大に向けて支援していきます。